

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2025年 3月 22日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井宣光

イエスは、人々の聞く力に応じて、このように多くのたとえみ言葉を語られた。(マルコによる福音書 4:33)

2024年度終業式

本日(3月22日)、中1、中2、高1、高2の4学年で中高合同の終業式を行いました。1年間の学修を終了し、学校生活の節目をむかえた生徒の皆さんは、少し緊張が解けたような表情を見せていました。私からは、新学年へむけて卒業文集に関連したアドバイスや心の整理の仕方について話しました。内容を紹介します。

本日、1年間の学校の締めくくりの日を迎えました。高校3年生は3月1日に、中学3年生は昨日卒業式を行い、本日の終業式は4学年で行っています。先生方は先日、学校の最も重要な会議である成績会議を行い、生徒の1年間の学業成績について検討し、学習面も生活面も真剣に議論しました。その結果、皆さんの次の学年への進級を認定し、本日の終業式を迎えているのです。あらためて今年度の学習の修了と、新学年への進級をお伝えします。おめでとうございます。1年間、お疲れ様でした。皆さんには、先生方に対しても1年間の指導に対する感謝の気持ちをもって終えていただきたいと思います。私もこの場から学年の先生方にお礼を申し上げたいと思います。先生方、ありがとうございました。

先ほど話したとおり、今月は卒業式がありましたが、今日は卒業に関連する話をしたいと思います。

まず高校卒業ですが、毎年、卒業生が松蔭時代を振り返る卒業文集が発行されています。今年の卒業文集を読んだ感想として、後輩の松蔭生へのメッセージだな、と感じさせる文章が多かったように思いましたので、その一部を紹介します。

ある高3生は、夏休みの韓国への異文化研修に参加し、韓国の高校生との交流や異文化の下で生活する経験が自分を大きく成長させたことと記していました。またNZのセントピーターズ校の短期語学研修に参加した生徒は、現地でのホームステイで大変苦勞したが、ひとりで困難を乗り越える経験をして、自分に対する自信につながったと書いていました。別の生徒は、自分は中学入学の松蔭生だが、高校進学の際、冬用のコートが大人っぽくなり、授業を受ける教室が変わるだけでは自分のプラスにはならないから多くの挑戦をしようと決心したと書いていました。そして、いろいろなことに積極的にチャレンジし続けた結果、学びや気付きが得られたとまとめていました。松蔭の学校生活では、実に多くの行事があります。国際交流プログラムやターム留学、1年留学の制度もあります。新学年では、勇気をもって一步を踏み出していただきたいと思います。

別の生徒は「生活を改めたいと思います」というタイトルで、松蔭時代の3つの反省点について記していました。それは、提出物が遅れがちだったこと。定期考査に向けた勉強が不十分だったこと、起床は親任せでギリギリの時刻に登校して教室に飛び込んでいたことの3つで、これからの大学生活では、しっかりとスケジュール管理、自己管理をしていきたいと述べていました。

「もしかして私のこと?」と感じている人もいるのではないのでしょうか? 耳が痛いなあと思っている人はいませんか? 提出物も勉強も、朝起きることも大切なことですが、完璧主義ですべてやりこなすことはしんどいかも知れませんね。ですから最初から100%をめざすのではなく、小さな目標を定めて達成していけばよいと思います。スモールステップの目標づくりです。

昨日は中学卒業式でした。卒業生への私のメッセージとして、高校時代には次の3つの心がけをしてはどうか、というメッセージを卒業生に送りました。心がけというのは、「いつまでもクヨクヨと悩まない」「人と比べない」「人のせいにならない」の3つです。今日は特に3つめの「人のせいにならない」という点について触れたいと思います。

「人のせいにする」というのは、自分のしんどさや悩みは、すべて他人に責任がある、と考えることです。「あの人のせいで~私は苦しんでいる」「〇〇してくれないから腹が立つ」「~やってもらえないから嫌だ」といった思考回路です。このことを「くれない症候群」と言ったり、そのように愚痴をこぼす人を「くれない族」と呼んだりもします。実は私は「くれない族」になっていた時期が

あります。10年前、校長になったばかりの頃、挨拶あふれる学校にしたいと思って校門で「おはようございます」と生徒一人ひとりに挨拶の声をかけ始めました。ところが挨拶しても無言で通り過ぎ、会釈をするでもなく、無視するように登校する生徒も多くて、挨拶の声を出す生徒は指折り数えて足る状態でした。私は「挨拶してくれない」「挨拶しても返してくれない」と、まさに「くれない族」になっていました。挨拶がないことを「生徒のせい」にしたのです。そんな時、守衛さんの一人に「いつも生徒に挨拶していただいて有難うございます」と感謝の気持ちを伝えたところ、ひと言「挨拶すると、自分が気持ち良いですから」とおっしゃいました。

その言葉を聞いて私は切り替えました。「してくれる、くれないは関係なく、とにかく登校する生徒に大きな声で挨拶して学校に迎えよう」と考えることにしたのです。

現在の松蔭はどうでしょうか。先日学校見学に来られた小学生とご両親が教えてくださいました。見ず知らずの私たちに向かって生徒さんたちが「こんにちは」と挨拶してくれた。挨拶のしかたもとても自然で、松蔭の雰囲気がよくわかった、とおっしゃっていました。皆さんの心がけてのおかげです。感謝します。

さて、さきほどの「くれない族」や「くれない症候群」ですが、心理学では、自分の課題と相手の課題という言い方で分析しています。自分の課題と相手の課題は別のもので分けて心を整理するのです。たとえば「友だちにLINEを送ったが、なかなか既読にならないから腹が立つ」ことが起こっているとします。この場合、LINEをすぐに読むか読まないかは、その友達の課題で、私が腹を立てることは私の課題だと考えるのです。別の例をあげます。「友達とケンカして、悪いと思ったから謝ったけれど、その友達はその時以来、口を聞いてくれなくなった」とします。謝罪したけれど、無視状態が続いていて、逆にこちらも腹が立って仕方ない、という状態です。この場合、「ごめんなさい」と詫びることはあなたが決めたことですが、それを許すかどうかは相手の課題です。相手が無視してくるのは、相手がそうすると決めたからで、あなたの課題ではありません。私が「くれない族」になった挨拶の話で言うと、校長が生徒に挨拶の声をかけるかどうかは校長の課題であって、挨拶の声を返すかどうかは生徒の課題です。私が腹をたてることと、生徒が挨拶を返さないことは無関係だと分析するのです。このように心を整理できると、たいていの悩みは解消するのではないかと思います。3つの「〇〇しない」のうち「人のせいにしない」について話しました。あとの2つは次の機会に触れたいと思います。

最後に、春休み中は気候が良くなって、ウキウキした気分になりがちです。歩きスマホなどはしないように、そして、交通事故にはくれぐれも気を付けてください。新年度には、新中1生と高校からの入学生、転入生合わせて100名あまりの新しい松蔭生が加わります。フレッシュな気分で新年度をむかえ、皆さんとこの場で再会して挨拶を交わしたいと思います。

(3月22日 中学校・高等学校 終業式校長メッセージ)